

文芸欄



俳句

紅梅会 (東灘区)

日輪の秋の音きく飛鳥寺
時雨とき羽結びしか鳥の群
山茶花のひっそりと咲く庭日和
山茶花の癒しを受けて天上寺
寒の月輝き澄める暁の空
晴れ渡る紅葉の夕べ朱の映えて
六甲の懐ふかし初紅葉

朋子
比佐美
扶喜子
美恵子
松子
里子
恵

梅苑会 (東灘区)

プランコやこぎ手も帰り夏夕日
どくだみの十字の灯宵の庭
夏まひる参院選の声もせつ
緑蔭をさがしながらのプレーかな
宝愛句らぶ (中央区)

清子
千穂子
孝子
しづ子

灯籠のあかりに微笑む石仏
畦道を子は立ち止まりカボチャ指す
昼寝覚め午前と午後を迷ひおり
墓参終へ一時昔話など

和子
悦子
千枝子
道子

南瓜切る母を見守る幼の目
デイーケア手づくり草履増えて秋
南京を屋根で作れと命じられ
死ぬまでは忘れられない終戦日

和志
哲男
啓臣

梅の美会 (兵庫区)
古民家や解体済み秋の風
鬼百合の種弾けおり友の墓
越して行く児に降るように蝉時雨
秋茜群れ飛び高くまた低く
切り取りて額に入れたき里の秋

山口 茂子
岡田富早恵
藤井 歌子
栗野 富江
山田 朝子

花山短歌会 (北区)
なぜなのか考えながら道を行く今年は葛に花多く咲く
砂浜の岩に腰掛け明石大橋孫はカニ採り我は一首を
コーヒーに水玉小さく浮べつハートの容の砂糖は沈む
救急車呼んでと友の電話あり焦るな焦るな焦る我なり
日の暮れて六甲の山霧ふかくして家族の帰り案じつつ待ちぬ
未知の人旧知の如く笑み語りミニコップでの小さき幸い

山田加壽代
磯元カヨ子
古林 保子
清水 恵子
木下いく子
船崎めり子

雨多き今年の夏や油蟬ジージー鳴くの初めて聞いた
(東)武田 勝子

青葉クラブ (北区)
鉄瓶に白き湯気立つ秋の朝
秋涼しFM聞きつ草引く吾
花木榿高きに咲きて雲ゆるく
高原ささゆり会 (北区)
八月尽軍国の妻百寿とか
キユンと鳴けり突きし魚に息止まり
新蕎麦やがんこ親父の古前掛け
忘れぬ亡夫は写真に白露かな
蝉時雨テレビ歓声消し去りて
ひまわり句会 (北区)
雷鳥の焼菓子頂き仏前に
シルバーや夏風通し輪投げせり
ひよどり台句会 (北区)
西の空見上げる視線縹雲
丘一面咲きてきすげの色となり
後半もつつが無しとて夏祓
捨てる句と捨てられぬ句の夏の宵
北斗句会 (北区)
爽やかや大気の匂ひ地の匂ひ
雨上がり新涼の風今朝の庭
涼新た口紅拭きて歯科医まで
新涼の朝の庭掃く巫女二人
好きな海好きなどだけ見る藍浴衣
鮮やかに金色のつぶ滴れり
滴りや苔に包まる摩崖仏
ホバリング水面に尾刺す赤とんぼ
山清水滴り落ちて村の井戸
新涼や境港の鮮魚来る
新涼や古き土蔵に風を入れ
福寿草句会 (須磨区)
明日在るを当然のごと髪洗ふ
惜敗のポスターはがす酷暑かな

馬場みつえ
山本 恒雄
前川 弘子
てる子
南 久美子
若林 節子
松村二三枝
山下 久一
石井 敏子
辻 寿賀子
塩見 光子
田中 弘子
中井 光子
矢谷登美子
黒田 久江
秋山 弘之
金行 隆
岸下 庄二
北条 幸夫
脇坂有多子
増田 嗣夫
川原 正
松本 洋子
藤井久美子
久松 礼子
岩田美代子
松下修二郎

つれづれに和田秀樹書に壁学び数多の愁い消え去りし夏
里山の水引草に風が立ちクマ蝉消えて澄みしヒグラシ
網度の中に小さなカマキリつまみだし何処から来たのか植木の上へ
名月に今はもう秋ルルル友と夜道をコンビニコーヒー
ボケの吾衰え認め仕方なしまともなこのみ生かして行こう
蜘蛛の巣が朝の陽を浴び銀色に網目模様枝葉で揺れる
山里の畦道孫等散策し葉草見付けて笑顔が弾ける
採りたてのプランタ野菜を和え物やサラダスープに一人の夕餉
多忙にて孤老の親を預けし始めシヨートステイがロングステイへ

上原 綾子
林 慎一
中村佳代子
大畑留理子
久下 順司
樋山 隆夫
山本雄二郎
木村 敏博
田畑美恵子
大上 昭敏
田野 湯仙
森本 珠実
山本スミ子
大橋 治子
喜田 弘征
阪本 道子
藤森 勝子
川上 富範
武子
知子
悦子
安田奈美江
山上 幸子
山田キミ子
高橋 純子
福本 和恵
藤田 恵子
山田としゑ

呼び声にみな立ち止り虹仰ぐ
エコ袋色の透けをり夏野菜
多間台ときわ会文芸部 (垂水区)
雲去りぬ狭き庭と萩三味
藤袴浅黄斑蝶に恋してる
憶良より秋の七草続きおり
自生する一度は見たいおみなえし
ローカルの列車一両芒原
草群れる水辺に凜とした桔梗咲く
桃山台クラブ文芸部 (垂水区)
空蝉や見舞も叶わず夫逝きて
やとと来た残暑見舞いの法師ゼミ
きらく句会 (西区)
天空の城に攻め入る夏の霧
黒布掛けピアノは晩夏の曲を秘め
梵鐘の一打に紅葉揺れにけり
夏帽子娘と逃避行まずホテル
初盆に祭壇の友微笑みて
日暮れても不思議に赤き秋の雲
月が丘むつみ会 (西区)
美々しさや庭さるすべり長期咲く
この道は瑞穂句うや夏の夕

◆個人
井戸蓋に花火並べて日暮れ待つ (東)中田 武子
炎天やじっくり見たき陽明門 (灘)都倉 知子
田舎道街の露地にもねこじやらし (灘)福井 悦子
黄昏の墓地に燈籠盃蘭盆会 (灘)安田奈美江
赤とんぼ空に大波あるごとし (灘)山上 幸子
雲の峰肥料買うて見上げをり (北)山田キミ子
かなかなやシャワーのごとく降り注ぐ (須)高橋 純子
蝦夷の地に栄枯盛衰敦盛草 (須)福本 和恵
里山や静かに眠るのこり月 (垂)藤田 恵子
橋立の天につらなる稲の秋 (垂)山田としゑ

葉陰にて黄色変身胡瓜かな
猛る夏折鶴らんを机上に活け
(西)寺岡 洋子
(西)濱頭ミノル

桂木ひふみ会 (北区)
神戸市のシンボルやはり風見鶏
前向きに生きて見つけた虹つかむ
マイナンバー二万につられそくさと笹岡 淑子
たぶん金持屋根のてっぺん風見鶏 杉尾 悦子
徘徊者探す家族が道迷う 大和ケント
筑栄会 (北区)
プロスポーツ一番の敵はコロナです 三 茶
西瓜盗り割ったはよいが熱ちちち かほう
飲むまいと思へど今日も理屈つけ あきら
今回もぎりぎりまでに句が出来ず とし子
保護猫が我が家に住みて早五年 まり子
世界中異状気候で困ってる まさこ
日と曜日わからないまま明日がくる

◆個人
コロナ禍で掃除がふえて部屋ひかる (東)辻本美佳子
あんた誰30年ぶりの弟に (東)早川キミエ
我が自慢あのカートチャンのコイバナよ (東)増田 芳之
かしましい通い薬のコマーシャル (北)北野 利一
コロナにも負けじとばかり蝉時雨 (垂)小高 肇
秋祭り腰にフンドシ顔マスク (西)萩原 浩一
グランドゴルフやっているから若いのか (西)藤原 健二
夕映えにふるさと想う「オーシンツク」 (西)藤長 文子

◆投稿募集
文芸欄への投稿をお待ち
しています。皆さまの作
品をお寄せください。
作品、住所、電話番号、
単位クラブ名、お名前を
必ずご記入ください。
(投稿先)
〒650-0016
神戸市中央区橋通3丁目4-1
KOBESHINIAクラブ事務局
「広報紙」係
FAX 341-8524
※〇〇は俳句短歌川柳へなぶり等

◆募集期間
締切は発行月の前々月15日必着
です。詳しくは左記の通りです。
掲載月 投稿募集期間
1月号 9月16日～11月15日
3月号 11月16日～1月15日
5月号 1月16日～3月15日
7月号 3月16日～5月15日
9月号 5月16日～7月15日
11月号 7月16日～9月15日
たくさんのご投稿をおまちして
おります。